

第2回受賞作品

最優秀賞 飯村 美冬・石井 美帆（高山小学校5年）

「鳥と共に生きる」～ツバメとシジュウカラの観察を元に～

鳥と人間の関係を調べて、一緒に仲良く生きていけたらいいなと考えて、自宅と隣のお店の巣を調べました。特殊ミラーを使って巣の中を観察し、仲良しの親鳥カップルがヒナにえさをやっている様子や、巣立った後の巣を観察し、材料が何かを知りました。また、巣の形や材料には地域によっていろいろあることも知りました。最後に巣は「ただ卵を置く場所」だけでなく、病原菌などの衛生面に対しても大きな意味を持つことがわかりました。今後鳥の生態と環境について考えていきたい。

優秀賞 山下 恵子（お茶の水女子大学付属小学校3年）

「ショウリョウバッタの研究」

理科の時間にグラウンドで見つけたショウリョウバッタを家で飼って研究しました。まず、食事の仕方を観察すると前足を使って上から下に動かして食べていました。次に脱皮の様子を観察し、皮がわれ背中から出て、後ろ足をつかってきれいに脱皮しました。交尾をした後、たまごを産んでいる穴を見つけました。「らんろう」とよばれる、あわのように見えるところにたまごがあることがわかりました。黒いフンが体と同じように長かったり、短かったりしていた。しかしにおいはなかった。

審査員特別賞 久保 琴梨（西武学園文理小学校3年）

「フヨフヨたまごを作ってみよう」

「バイオのたまご」で紹介された「フヨフヨたまご」とはどんなものかを知りたいと思い、いろいろ実験しました。酢につけるとあわがだんだん出てきて、3日目にはあわの出が収まり、たまごが大きくなっているのがわかった。さわってみるとカラが溶けてフヨフヨになっていて、かたいまくだけはしっかり残っていた。中をわってみると黄みがつやつやになっていて、色が茶色になっていた。たまごを半分だけ酢につけると、半分だけカラがとけた。ウズラの卵も、ニワトリの卵と同じようにカラがとけた。

特別賞

田畑宏樹（九段小学校1年） 「いかのかいぼう」

村上和優（西戸山小学校2年） 「おじぎそう」

村上佳穂（西戸山小学校3年） 「いろいろなたまご」

平成22年2月